



Team Goodyear Racing 手塚強選手

Rd.5 EBISU

手塚・時田のワンツーフィニッシュに沸いた第4戦岡山国際から2ヶ月。D1グランプリ第5戦の舞台は、開幕戦に続き今シーズン2度目の開催となる福島県エビスサーキット。この地をホームグラウンドと謳うD1ドライバーも多く、それだけに走り慣れた猛者たちがコース幅一杯を使い切り息をのむ激戦を繰り広げてくれる。天候は下り坂ながら概ねドライコンディション。着実にポイントを重ねてきた GOODYEAR Racing の手塚選手はこの日、遂に赤ゼッケン1番をつかみ取った。

【1回戦単走】

開催回数の多いサーキットだけに審査員の間も厳しいエビス。微細なミスも許されないことはもちろん、カッコイイだけじゃ高得点は望めないことを熟知する手塚選手は、1本目から審査員席前をダイナミックに攻め込み9.9、3点で当確。続く2本目では進入のコンクリート



BEST16 手塚選手 vs 野沢選手

ウォールにテールを激しくヒット。観衆をヒヤリとさせるがマシンを絶妙に操り何事もなかったかのように完走。審査員からも「コレが手塚の走り」と賞賛のコメント。真剣勝負の幕間にエンタテインメントを繰り込む天性に脱帽。

【追走バトル】

改めてコースレイアウトをおさらいすると、最終コーナーからメインスタンド前を駆け抜け1コーナーへと進入、審査員席前の2コーナーから3、4コーナーはタイトかつ上り勾配。追走バトルでの見どころは進入から審査員席前にかけてのピタピタ感だが、コンパクトなレイアウトのエビスでは特に後追いの攻め方が勝敗を分ける。写真はいずれも後追いの手塚選手だが、野沢選手(16戦)、田中選手(8戦)、末永選手(4戦)を相手に、



BEST8 手塚選手 vs 田中選手

脇腹をえぐるが如く見事な追走を披露してくれた。

最後は末永選手のマシンから漏れたクォーラントに足を取られたのかハーフスピンしてしまったが、その迷い無き走りですべての座を獲得した。

【カーナンバー「1」】

累積70ptに18ptを加え88ptの手塚選手。今大会5位に終わった野村謙

選手を抑え、今シーズン初の単独首位。赤ゼッケン「1」には独特のプレッシャーがあると言われるが、その洗礼は昨シーズン経験済み。「Enjoy Drift」を掲げる手塚選手にはもうそんな心配もないだろう。

残る3戦、背中に迫り来るビッグネーム達を相手に、保守よりも攻撃の手塚選手を、そしてシリーズチャンピオンの行方を、ファンと共に楽しみたい。



火花を散らせ激走するBNR32 手塚選手



BEST4 手塚選手 vs 末永(正)選手